



「社会と結びついた学習」を実現する 新聞記事データベース

水谷 彩／藤井 亜希子



＜抄録＞

手に入れられる情報量の増大と反比例するように、生徒個人の興味・関心の幅は狭くなってきている。世間で論じられている社会的なテーマを新聞記事で客観的に示し、「知る」「調べる」「理解を深める」といった情報活用の取り組みを通じて、社会と結びついた学習を実現させる。

＜キーワード＞

データベース、新聞、朝活、ワークシート、小論文、家庭科、情報活用能力、主権者教育

1 はじめに

相模女子大学中学部高等部は、日本における女子の高等教育が始まった1900年に創設された日本女学校を礎に発展。現在は幼稚部、小学部、中学部・高等部、大学・短期大学部・大学院を擁する総合学園として、社会に有為な人材を多く世に輩出している。

高等部では教育目標に「英知・誠実・友愛」を掲げ、目指す生徒像の1つとして「広く社会と関わり、社会に貢献できる生徒」を挙げている。この「社会との関わり」を日常の学習から意識させるため、さまざまな科目で新聞記事を活用している本学の取り組みを紹介する。

2 「朝活」での活用

本学では5分間の「朝活」を設けている。高校3年生では、語彙ワークシートや数学ワークシート、新聞ワークシート等複数種類を用意し、日替わりで取り組んでいる。

新聞ワークシートは、例えば18歳選挙権や格差貧困問題に関する記事を教員が選び、同じテーマを扱った記事を複数紙読み比べられよう裏表で印刷して配布している。いずれのテーマもさまざまな意見や視点があり、教員が自身の言葉で説明する場合、どこまで意図を伝えるか・伝わるかのさじ加減が難しい。客観性のある新聞を複数紙読み比べさせることで、生徒自身の内発的な考えを引き出すことがねらいである。

朝日新聞(6.19) 「相模女子」という言葉が話題になった(流行語大賞の上位)のは、2006年小泉政権の頃と比べると格段に知名度が拡大し、いまや日本は「木村村の貧困率」で世界首位に躍進した。

「生活保護費」をめぐって、生活困窮者への支援... (Text continues with details about social support and welfare issues.)

ドリル 生活困窮者への支援

ドリル 生活困窮者への支援. Includes a table with columns for '生活保護費' (Welfare Allowance) and '生活困窮者' (People in need of support), and a diagram showing the flow of information and support.

ワークシートの作成にあたっては、新聞記事データベース「朝日けんさくくん」や「今解き教室」を2014年から活用している。紙の新聞では、用紙にあわせてコピーサイズを調整する手間がかかっていたが、朝日けんさくくんはプリンタで簡単に記事を印刷することができる。

また、紙の新聞は処分をしてしまうとスクラップしていなかった記事は利用できなくなってしまうが、朝日けんさくくんは好きなタイミング、自由なキーワードで記事検索ができるため、教材作成にかかる手間を削減することができた。

3 小論文指導での活用

小論文指導においては、生徒自身に朝日けんさくくんを使わせる機会がある。新聞記事に馴染みのない生徒や、「キーワード検索」を不得手とする生徒向けに使い方説明会を開いている。

また、初期には生徒とともに PC ルームや図書館に足を運び、キーワードを組み合わせることで記事を絞り込む「AND 検索」や、検索結果画面に表示される各記事の文字数から扱いの大きさを知る方法等、効率的な使い方を指導している。小論文では新しい分野のテーマが問われることが多く、新聞記事の速報性が活かされている。

「朝日けんさくくん」使い方説明会

3年生になり、本格的に「志望理由書」や「小論文」の準備を考えている人も増えていると思います。

でも、ちょっと待って！
文章を書くには、「下調べ」が必要です。

「子どもの貧困」・「老老介護」・「限界集落」・
「難民問題」・「ジェネリック薬品」・・・
こんな言葉を聞いてもピンとこないあなた、**新聞記事検索システム「朝日けんさくくん」**で、志望分野に関する知識の補強をしましょう。

推薦・AOを考えている人、小論文が必要な人はぜひ参加してください。

4月25日(月)15:30～ @ 第2校舎PCルーム

※情報の授業で用いたPCルームを使うためのID・パスワードを持参すること。



1. 年代別の出生率はどのような傾向か。

2. 第一子の平均出産年齢は何歳か。

3. 初産年齢は何歳か。

4. 出生率が低下した原因はどのようなことが考えられるか。

5. 合計特殊出生率とは何か。

6. 出生率を上げるにはどのような対策が必要か。あなたの考えを述べなさい。

朝日新聞 2015年6月6日 朝刊 1ページ 東京本社

出生率 9年ぶり低下

昨年1・42 回復傾向止まる

2014年の合計特殊出生率は、今年も人口減少のペースで1.42と前年を下回り、11年連続で減少した。出生率の回復傾向は止まり、人口減少のペースはさらに速まっている。出生率の低下は、少子化対策の効果がなかなか見えない状況だ。出生率の低下は、少子化対策の効果がなかなか見えない状況だ。

出生率の低下は、少子化対策の効果がなかなか見えない状況だ。出生率の低下は、少子化対策の効果がなかなか見えない状況だ。

合計特殊出生率の推移

出生数と死亡数の推移

合計特殊出生率

出生数

死亡数

人口動態統計から

5 おわりに

グローバル社会を生き抜くために必要とされる「21世紀型スキル」でうたわれるように、大学入試問題の内容の変化や18歳選挙権に伴う主権者教育等、従来の「知識を中心とした単元に基づく学力」に留まらず、社会的なテーマや出来事と結びつけて思考力・判断力・表現力を育てていくことが教育現場には求められている。今の情報を、さまざまな立場の人の考え、見解を並べることで客観性を持って示していく役割は今後一層大きくなっていくだろう。

紹介してきた事例以外にも、高校一年生の特進コースを対象に、新聞記事データベースや書籍で社会的なテーマを調べ、壁新聞を作って文化祭で展示する取り組みを本格化する予定である。

「社会と結びついた学習」の経験を活かし、生徒たちがしなやかに、たくましく、社会で活躍してくれることを願っている。

4 家庭科での活用

教員が準備した出生率に関する記事からデータ等を抜き出し、出生率を上げるにはどうしたらよいかを考え、発表する授業を行っている。他にも、介護に関連した「胃ろうの是非」や女性の働き方に関連した「男女雇用機会均等法」の記事等を取り上げ、生徒にこういったキーワード・テーマが世にあることを知らせ、「自分事」として考えるよう促している。家庭科が扱うテーマは多分野にわたるため、新聞記事の活躍する機会は多い。

更に、インターネットやテレビで報じられる表面的なニュースだけでなく、背景や歴史を知ることができるところも利点として挙げられる。例えばインターネットサイトを通じてベビーシッターに預けた子どもが殺された事件について、情報が少ない中では「私だったらそんなところに預けない」と単純に母親を否定する意見があった。だが、事件に関する新聞記事を読むことで家庭環境や保育施設の整備状況、ネット託児に関する法整備等複数の問題が絡み合っていることを知り、一歩進んだ議論をできるようになった。